

2026年度

SD

小論文

3月12日(木)
【後期日程】

グローバル共創科学部

12 : 20 ~ 13 : 40

注意事項

試験開始前

- 1 監督者の指示があるまで、問題冊子、解答用紙、下書き用紙に手を触れてはいけません。
- 2 監督者の指示に従って、全部の解答用紙(3枚)に受験番号を記入しなさい。

試験開始後

- 3 この問題冊子は、3ページあります。はじめに、問題冊子、解答用紙、下書き用紙(3枚)を確かめ、枚数の不足や、印刷の不鮮明なもの、ページの落丁・乱丁があった場合は、手をあげて監督者に申し出なさい。
- 4 解答は、すべて解答用紙に記入しなさい。(下書き用紙と間違わないよう十分注意してください。下書き用紙は採点対象となりません。)
- 5 文字数制限のある解答用紙の記入については、下記の点に留意すること。

- ・書き出しは、一マスあけない。
- ・改行したら一マスあける。
- ・句読点及び括弧等は、それぞれ一マス使う。行の末尾については文字と同じ一マスに含める。
- ・小さな文字「っ」「ゃ」「ゅ」「ょ」等はそれぞれ一マスで使う。
- ・行の最後の句読点は、最後のマス目の文字と一緒に書き入れる。

- 6 問題は、声を出して読んではいけません。
- 7 配点は、比率(%)で表示してあります。

試験終了後

- 8 問題冊子と下書き用紙は、必ず持ち帰りなさい。

著作権の関係上、公表しません。

次の文章は、伊藤将人『移動と階級』より、「はじめに」と題する一節からの抜粋である。これを読み、後の問一から問三に答えなさい。

著作権の関係上、公表しません。

著作権の関係上、公表しません。

【伊藤将人『移動と階級』（講談社現代新書、二〇二五年、三頁―二頁）。なお、出題の都合上、原文の一部を省略・改変している。】

問一 傍線部①「移動に困難を感じている人」や「移動したいけれど、移動できない人」とは一体どんな人か。文中の言葉を用いて一五〇字以内で説明しなさい。(配点二〇%)

問二 傍線部②「移動をめぐる困難や苦勞を抱えたり、不平等さを感じたりしている人はたくさんいる。それは非日常的な出来事が起きたとき、一段と顕著なものとなり、可視化される」と筆者は述べ、その最たる例として二つの「災害」を挙げているが、「災害発生直後の避難」において可視化されたものと「二次避難」において可視化されたもの、それぞれについて文中の言葉を用い、筆者の考えを三〇〇字以内で書きなさい。(配点三〇%)

問三 傍線部③「移動の機会や可能性は、人々に等しく与えられていない」と筆者は述べているが、移動をめぐる格差や不平等について社会としてどのような取り組みが考えられるか、具体例を挙げながら、あなたの意見を五〇〇字以内で論じなさい。(配点五〇%)